



2007年8月29日

神奈川県海老名市
市長 内野 優 殿
神奈川県海老名市議会
議長 森田完一 殿

社団法人 日本建築学会
関東支部長 片桐 正夫

海老名市温故館の保存に関する要望書

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
日頃より、本会の活動につきましてはご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

さて、貴市におかれましては、海老名市郷土資料館「海老名市温故館」(海老名市国分南1丁目19番36号)を耐震性に不安があるとして、2006年(平成18年)9月以来休館の措置をとられ、現在同館の存続如何について貴市議会で検討されている由、新聞報道等どうかっております。

御承知のように、この建物は1918年(大正7年)、相模国分寺史跡の一画に、海老名村役場として建てられたもので、神奈川県内に現存する最古の地方庁舎の遺構であります。全国的に見ましても、明治期の郡役所や学校といった木造公共建築と相通ずる性格を有する貴重な存在であります。海老名村役場から海老名町役場となり、その後海老名町商工会議所として用いられ、さらには1982年(昭和57年)以来、海老名市温故館として用いられ、今日に至っておりますが、温故館は、国分寺が置かれ古代の相模の中心であった海老名の古代遺跡からの出土品を保存するため1921年(大正10年)に設けられた施設であり、幾代かの温故館が失われた後を、この建物が引き継いだものであります。このように、この建物は、近代海老名の発展を象徴する存在でもあり、また、その場所性からしても現在の用途からしても、海老名の古代と近代を結ぶ存在でもあります。

海老名市郷土資料館「海老名市温故館」は、別紙「見解」に示します通り、神奈川県内に現存する希少な関東大震災前の創建になる遺構であり、上にも述べましたように神奈川県内最古の地方庁舎の遺構であります。内部は改修が行われておりますが、外観はよく創建時の姿をとどめております。今後も末永く利用してゆくことが十分可能な建物であるとともに、使い続けることによって更にその地域の歴史的価値・文化的価値を高めてゆくことが間違いなく可能な建物と考えられます。

貴市議会におかれましては、この貴重な建物の持つ高い歴史的価値と文化的意義についてあらためてご理解をいただき、このかけがえのない文化遺産が永く後世に継承されますよう、格別のご配慮を賜りたくお願い申し上げます次第であります。

なお、日本建築学会関東支部といたしましては、この建物がしかるべき構造補強を経て再活用されますことを祈念いたしますと共に、そうした再活用計画につきまして、学術的な面でご協力する所存であることを申し添えます。

敬具